

本県「長久保赤水顕彰会」

地域再生大賞 候補出そろふ

地域づくりに挑む団体を応援対象に、各都道府県から1、2しよつと、地方新聞46紙と共同

通信が設けた「第11回地域再生大賞」の第1次選考を通過した50団体が30日、出そろった。地元根ざした活動を持続・展開している団体に加え、新型コロナウイルス感染症拡大への取り組みもあり、多彩な顔触れだ。選考委員会の審査を経て、来年1月に大賞など各賞を発表する。

本県からは、高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水の功績を伝える「長久保赤水顕彰会」が選ばれた。

第1次選考は各紙と共同通信が実施。NPO法人や市民団体、地域貢献に取り組む企業などを

対象に、各都道府県から1、2

これから50団体の活動を専門家による選考委員会が審査。大賞(副賞100万円)、準大賞(同30万円)のほか、ブロック賞(同10万円)などを贈る。表彰式は来年2月、東京で開催する。

地域再生大賞は2010年度に創設。20年度は「コロナ禍を越えて」という副題を設け、コロナへの対応については過去の受賞団体も推薦できるようにした。また今回から表彰対象に個々の団体だけでなく、広域連携などのプロジェクトを含めるなど要件を緩和した。